

令和4年度 大学生と集落の協働による地域活性化事業 活動報告会

日時：2023年2月11日(土) 13:00~16:30

場所：ホテル福島グリーンパレス 2階 瑞光の間

活性化



交流



大学生
×
集落

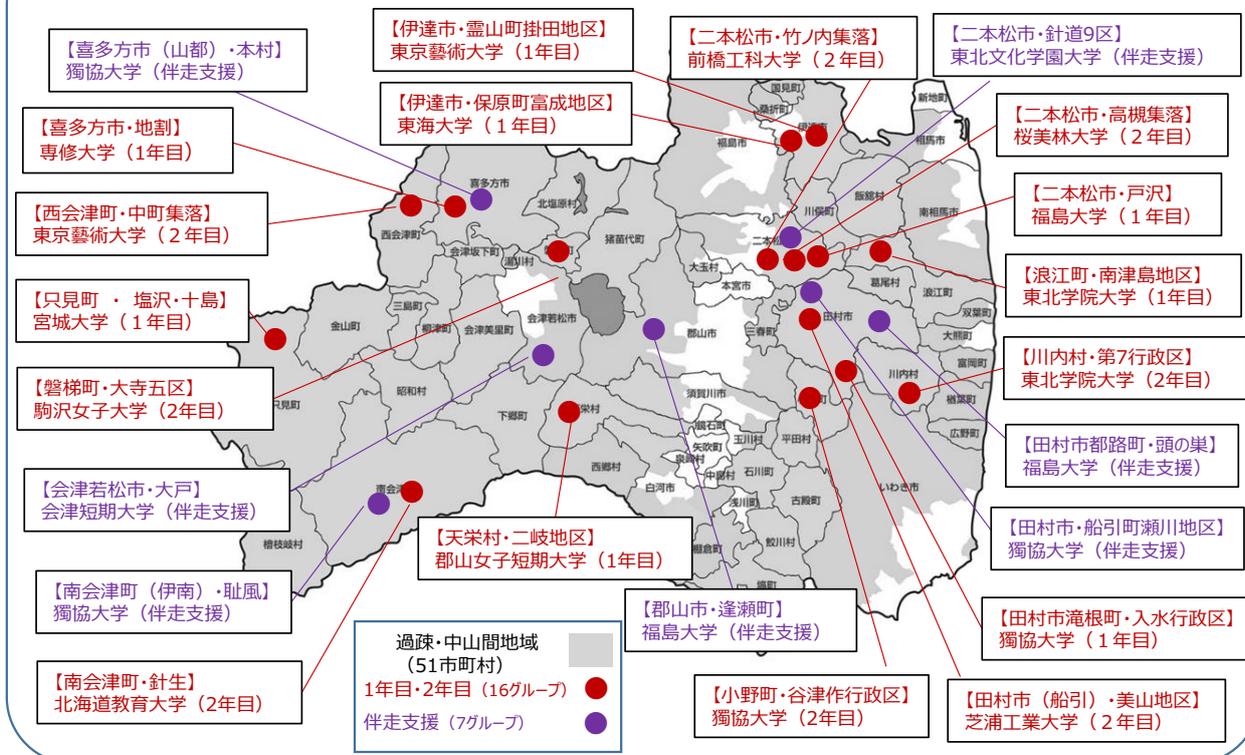


発見



繋がり

令和4年度 大学生と集落の協働による地域活性化事業 参加23グループ活動地域



令和4年度 大学生と集落の協働による地域活性化事業 活動報告会 プログラム

- 13:00 開会
主催者挨拶
- 13:05 本日のプログラム進行のご説明
- 13:08 **活動報告①** 集落の主体的な活動の伴走支援に取り組んだ7グループ
- 13:51 休憩
- 14:05 **活動報告②** 活動1年目として集落の実態調査に取り組んだ8グループ
- 14:44 休憩
- 14:55 **活動報告③** 活動2年目として集落活性化策の実証活動に取り組んだ8グループ
- 15:50 休憩
- 16:00 **交流タイム** (ポスターセッション形式)

令和4年度 大学生と集落の協働による地域活性化事業 各グループの活動概要

- p.1~4 活動1年目として集落の実態調査に取り組んだ8グループ
- p.5~8 活動2年目として集落活性化策の実証活動に取り組んだ8グループ
- p.9~12 集落の主体的な活動の伴走支援に取り組んだ7グループ

1-1.
専修大学
商学部 渡邊隆彦ゼミ
×
喜多方市 ^{じわり}地割地区

○専修大学
商学部 渡邊隆彦ゼミ

ゼミの課外活動で地割地区への縁ができたことがきっかけで、今年度は、本事業を活用してゼミの11名で地域の活性化支援に挑む。

■集落の抱えている課題

高齢化の進む山間集落であるが、地域内外の交流の一環として冷田沢堤という大きなため池に500匹のニジマスを放流し、イベントを行うなど、集落の維持活性化を図っている。

■2022年度の活動

1年目である今年度は、地割地区を知るための体験やフィールドワークを中心に実施した。来年度にどんなことができるかを具体的に考えていきたい。

〈主な活動内容〉

- ・集落を歩く
- ・体験（そば打ち体験、みしらず柿収穫、雪囲い設置、ニジマス釣りなど）
- ・集落の方との交流



1-2.
東京藝術大学
やないけん
×

伊達市 ^{かけだ}掛田地区

○東京藝術大学やないけん

芸術や美術、デザインを前提としなくても、地域の方々との交流の中で、クリエイティブが生まれる体験をするべく、地域へ入った。芸大生の強みを活かして、地域活性化に取り組む。

■集落の抱えている課題

旧霊山町の中心地として商店街が形成されていたが、衰退が止まらず、また高齢化から農業も衰退している。

■2022年度の活動

集落に行き、集落を見て、お話を伺う中で見えてきた課題に対して、芸大生としての切り口から、まずは小さいことから始めたいと考えた。個性あふれる地域の方々の似顔絵を描いて、グッズ展開をしていくことを考えている。

〈主な活動内容〉

- ・集落視察（街並みや農家の視察、霊山太鼓体験など）
- ・地域の方々との意見交換



1-3.
獨協大学
地域活性化プロジェクト
入水チーム

×

いりみず

田村市 入水行政区

○獨協大学地域活性化プロジェクト入水チーム

メンバーは、環境と開発の両立を目指しながら観光客を誘致する、持続可能なあり方を地域と協働で実施できればと集まった6名。

■集落の抱えている課題

県内屈指の自然観光資源である入水鍾乳洞などがあるが、十分に活用できておらず、高齢化、原発事故、コロナ禍などにより観光客は激減し、地域経済は低迷している。

■2022年度の活動

観光資源の掘り起こし、活用策の検討を行うべく、集落調査、地域の方々へのヒアリング等を行った。メンバーは、近隣で観光客を集めているあぶくま洞が、見て楽しむ観光資源であるのに対して、入水鍾乳洞は、体験型のアドベンチャー資源として魅力を体感した。さらに地域の方々とのコミュニケーションを続け、具体的な提案ができるフェーズに入りたいと考えている。

〈主な活動内容〉

- ・集落調査（入水鍾乳洞、農家訪問、三十三観音巡りなどの観光資源を中心とした調査）
- ・地域の皆さんとの意見交換会



1-4.
福島大学 岩崎ゼミ
×
二本松市 戸沢7区

○福島大学岩崎ゼミ

中山間地のまちづくりについて学ぶメンバー。集落の現状を把握しながら、地域活動や住民活動の展開を支援したいと考えている。

■集落の抱えている課題

農業の衰退、高齢化によって地域力が低下し、さらに原発事故、自然災害、コロナ禍など、地域の存続自体が危ぶまれている状況にある中、北戸沢保全会は地域の維持・活性化の活動を行っている。

■2022年度の活動

戸沢地区の現状を知るために、インタビューや調査を行って、課題点を整理した。荒れた竹林が多いことから、寄せ切りの手伝いをするなど、地域の保全活動にも取り組んだ。フットパスの実施や魅力マップの作成などの提案が出て、来年度から実際に取り組みたいと考えている。

〈主な活動内容〉

- ・地域の中心メンバーへのインタビュー
- ・田向の湯など資源調査
- ・竹の寄せ切りの手伝い
- ・河川の清掃作業 など



1-5.
東海大学

スチューデントアチーブメントセンター3.11生活復興支援プロジェクト

×

伊達市 とみなり 富成地区

○東海大学スチューデントアチーブメントセンター3.11生活復興支援プロジェクト

本プロジェクトは、被災地における支援を行ってきたが、新たな活動として活性化のための課題発見、具体的な取組方法などについて地域住民の方々とともに考えたいという。

■集落の抱えている課題

震災によって人口は減少し、高齢化が進んでいるが、コメ、野菜、果物などの農産物に対する評価は高い。しかし空き家の増加、耕作放棄地の増加などが問題となっている。

■2022年度の活動

地域を知るための集落調査と合わせ、地域の現状や課題を中心に、様々な世代の方々との意見交換会をじっくりと行った。これを踏まえ、地域の方々との密なコミュニケーションをとりながら提案をしていきたいと考えている。

〈主な活動内容〉

- ・集落調査（地域資源視察、特産品試食、あんぽ柿作り体験）
- ・地域の方々との意見交換会



1-6.
東北学院大学
南津島民俗調査
プロジェクト

×

浪江町 みなみつしま 南津島地区

○東北学院大学
南津島民俗調査プロジェクト

メンバーは22名。文学部歴史学科で地域文化を研究対象とする民俗学を専攻している。この専門分野を活かし、地域復興のために帰還困難区域である南津島地区の民俗芸能の継承に取り組む。

■集落の抱えている課題

東日本大震災による原発事故により全ての住民が避難して11年が過ぎ、コミュニティは崩壊状態にある。地域の文化や芸能は披露する機会も少なくなり、南津島地区の歴史や文化の継承が危ぶまれている。

■2022年度の活動

南津島地区の地域文化や芸能を後世に残すための活動をしていきたいと考えている。今年度はまず、農業が盛んな南津島地区で、米作りの様子を表現した五穀豊穡を願う郷土芸能である「田植え踊り」について、その意味を知り、踊りを学び、踊りを披露する活動を行った。

〈主な活動内容〉

- ・DVDや文献による事前調査
- ・地域の「師匠」から、踊りを見て、学んで、踊る
- ・「ふるさとの祭り in 道の駅なみえ」での披露に参加



1-7.
郡山女子大学短期大学部
地域創成学科

×

天栄村 ふたまた
二岐地区

○郡山女子大学短期大学部
地域創成学科

メンバーは文化・歴史、アート
& デザイン、ビジネス、情報を
学ぶ学生。県内の大学として、
地域との綿密なコミュニケーション
で地域連携活動に取り組む
としたいと考えている 11
名。

■集落の抱えている課題

秘湯を売りにした温泉地であるが、旅館では宿泊客の減少が経営を圧迫している。また、地域の高齢化も進んでおり、集落機能の維持も難しくなっている。

■2022年度の活動

各旅館経営者のインタビューを通して、現状を知るとともに、ワークショップ形式の意見交換により、地域の課題や方向性を見出す活動を行った。

〈主な活動内容〉

- ・インタビュー調査
- ・ワークショップ形式の意見交換



1-8.
宮城大学
小地沢研究室

×

只見町
しおざわ じゅうじま
塩沢・十島地区

○宮城大学 小地沢研究室

小地沢研究室では、建築学をベースに、まちづくりや都市計画を学ぶ。まちを俯瞰してソフトの提案もしていきたいと考えている 10 名。

■集落の抱えている課題

只見線の会津塩沢駅があり、只見線の 11 年ぶりの再開通に盛り上がっているが、高齢化が著しく、高齢者の生活支援がままならない実態にある。

■2022年度の活動

塩沢・十島の集落について事前調査をした上で、実際に集落に入り、現地調査、意見交換を行って、現在の地区の課題を整理した。来年は高齢者の生活支援などの具体策を提案し、実際に活動していくというフェーズに入りたいと考えている。

〈主な活動内容〉

- ・集落調査（空き家の状況や観光わらび園が人手不足で荒れているなどの現状を調査した）
- ・地域の方々との意見交換会



2-1.
駒沢女子大学
榎本スタジオ

×
磐梯町 おおてら 大寺五区

○駒沢女子大学榎本スタジオ

メンバーは、大学で住空間デザインを学び、家具をはじめとした生活に関するアイテムのデザインや制作を行っている。地域活性化の活動に興味を持つ5名が参加した。

■集落の抱えている課題

耕作放棄地の拡大、担い手の不足など、コミュニティ自体も衰退しているが、大寺五区青年会は、「自分たちの地域は自分たちで楽しくしよう！」と地域活性化に取り組んでいる。

■2022年度の活動

2020年度に、耕作放棄地の現状を踏まえ、会津の特産であるそばを栽培、収穫し、ブランド化を目指そうというプロジェクトを開始したが、コロナ禍で昨年度は現地に訪問できなかった。今年度は現地に赴き、収穫の手伝いを行った。

〈主な活動内容〉

- ・地域の皆さんとのWeb会議
- ・そばの収穫のお手伝い



2-2.
桜美林大学
渡邊ゼミチーム

×
二本松市 たかつき 高槻集落

○桜美林大学渡邊ゼミチーム

渡邊ゼミは、「ツアープランニング研究室」として、観光による地域振興を学んでおり、課題を抱える集落への支援ができないかと考えている。

■集落の抱えている課題

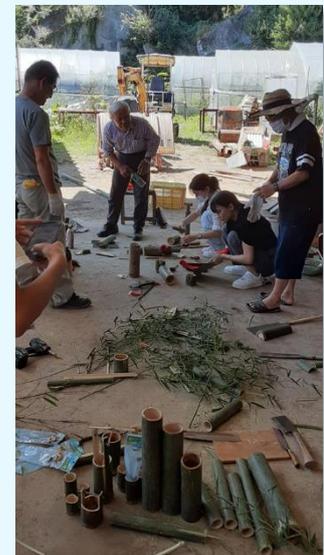
高齢化や人口減少により耕作放棄地が拡大しているだけでなく、獣害も大きく農業に影響している。また民泊に取り組む農家も多いが、コロナ禍によりそれもできない状況となっている。

■2022年度の活動

今年はメンバーが入れ替わったため、現地調査、地域の方々との意見交換から始め、実現性を鑑みた活性化策の実現に向けて活動した。

〈主な活動内容〉

- ・現地視察、民泊体験
- ・竹細工の加工体験
- ・竹製品のフリーマーケット（都内）での販売 など



2-3.
獨協大学
地域活性化プロジェクト
米山チーム Part 2

×
小野町 やっざく 谷津作行政区

○獨協大学地域活性化プロジェクト米山チーム Part 2

2019年から地域の方々と協働で地域活性化に取り組んできた。メンバーは学部を超えて地域活性化のために集まった6名。

■集落の抱えている課題

人口減少により活気が失われているのを併せて、コロナ禍により、交流人口も減少している。また、子どもたちの地域への愛着も低下している実態が見られた。

■2022年度の活動

地区の資源である小野温泉の源泉「大地の泉」の活用提案を行うとともに、まちの魅力に触れることのできるイベント「小野町ふれあいフェスタ」の手伝い、中学生の学習サポート「TERAKOYA プロジェクト」の実施、学内イベントでの物産展の実施など、地域の支援からプロジェクトの提案までを行った。

〈主な活動内容〉

- ・地区の方々との意見交換会
- ・大地の泉の活用提案
- ・小野町ふれあいフェスタの手伝い
- ・TERAKOYA プロジェクトの実施など



2-4.
東北学院大学
金子研究室
川内村プロジェクト
×
川内村 第7行政区

○東北学院大学金子研究室
川内村プロジェクト

メンバーは15名。文学部歴史学科で地域文化を研究対象とする民俗学を専攻している。地域の伝統文化をフィールドワークによって収集、掘り起こしをし、文化的な資源としての価値を見出し、集落維持のサポートをしたいと考えている。

■集落の抱えている課題

震災、原発事故の影響の大きい地域で住民は減少し、高齢化は56%という地区。「あと10年したら一体どれだけの人が住んでいるか…」と危惧しており、地域文化の伝承が途切れることをなんとしても避けたいと考えている。

■2022年度の活動

今年度は実際に現地に入り、地域の方に対する聞き取り調査を行うとともに、史料調査、石塔調査、史料目録を作成した。市町村史にもない、村で最も古いと考えられる石塔を掘り起こし、調査することができた。

〈主な活動内容〉

- ・史料調査
- ・石塔調査
- ・聞き取り調査
- ・資料目録の作成 など



2-5.
北海道教育大学
アウトドアライフコース

×

南会津町 はりゅう
針生

○北海道教育大学
アウトドアライフコース

自然と社会を結ぶアウトドアのあり方について学んでいる学生たちは、アウトドアを通じた地域おこしに力を貸したいと考えている。また本コースの卒業生が針生に移り住んでアウトドアをツールに地域活性化に取り組んでいる。

■集落の抱えている課題

スキー場などをはじめ観光資源が多くある地域だが、高齢化、少子化により担い手が減少している。一方で、移住者を含む若い層が地域活性化に取り組んでいる。

■2022年度の活動

コロナ禍で参加学生が入れ替わったため、集落調査を行うとともに、課題整理を引き継いで検討した地域活性化策の具現化に向けて、プレゼンテーションや意見交換を行った。

〈主な活動内容〉

- ・集落調査
- ・地域活性化策の提案と意見交換
- ・地域活性化策の具現化に向けた検証
- ・地域活動のお手伝い



2-6.
前橋工科大学
都市・地域計画研究室

×

二本松市 たけのうち
竹ノ内集落

○前橋工科大学
都市・地域計画研究室

建築や都市計画を学ぶメンバーは、空間に着目して地域のあり方を考える。

■集落の抱えている課題

少子高齢化とともに、耕作放棄地、空き家が増え、集落にある竹林も荒れて、これまでの豊かな里山の風景が失われつつある。

■2022年度の活動

昨年度調査から、空き家や荒れている竹林の問題に取り組むため、具体的な空き家の活用についての検討、竹を活用した休憩スポットの整備を行った。

〈主な活動内容〉

- ・空き家活用プランの作成
- ・プランに基づく住民の皆さんとの意見交換
- ・竹のベンチなどの作成による休憩スポットの整備
- ・竹を活用したものづくりワークショップ



2-7.
芝浦工業大学
次世代SDGs研究会
東北グループ

×

田村市 ^{みやま}美山地区

○芝浦工業大学
次世代SDGs研究会
東北グループ

次世代SDGs研究会は、環境資源や人材を活かした地域創生活動を、地域の方々と協働しながら企画・実行し、社会の課題解決に貢献することを目的に活動している。

■集落の抱えている課題

葉たばこ、蚕、繁殖牛などで栄えてきたが、耕作放棄地の拡大、担い手の不足などが進み、美しい景観が失われつつあり、また地域の共同活動等もできなくなってきている。しかし、地域活性化のために「美山まちづくり協議会」をはじめ熱心な住民の方々が活動している。

■2022年度の活動

メンバーは建築を学ぶ学生であることから、遊具の設計を行い、実際に地域の皆さんと協働で遊具を制作した。また、昨年度から引き続き美山小学校の子どもたちと共に景観調査を行い、美山で「残していくべき美しい景観」の掘り起こしを行った。

〈主な活動内容〉

- ・木製遊具の制作
- ・美山小学校の子どもたちとの景観調査



2-8.
(東京藝術大学院)
学生有志団体
やどりぎ案内

×

西会津町 ^{なかまち}中町集落

○(東京藝術大学院)
学生有志団体 やどりぎ案内

都内の美術大学に通う学生を中心とした有志7名。集落の方々と直接関わり、アートで地域活動をしていけないかと地域の方からの声かけをいただいたところから始まった。

■集落の抱えている課題

西会津町では「西会津国際芸術村」に国内外のアーティストが集まっているものの、地域との関わりが希薄であったため、直接、アーティストが集落の住民と関わりを持つことを望んでいた。

■2022年度の活動

集落の方々のお話を伺うことからスタートし、使われていない広場「権現堂」でなにかできないかと、集落の皆さんを巻き込み、その場所の草木で布を染めるところからアートイベントを開催した。

〈主な活動内容〉

- ・集落の方々との意見交換
- ・活動の企画提案
- ・権現堂をつくるプロジェクト（公開制作、ガイドツアー）



3-1.
獨協大学
セガワ応援隊

×
田村市 せがわ
瀬川地区

○獨協大学 セガワ応援隊

メンバーの卒業により、現メンバーは昨年度から活動している。昨年はコロナの影響で、現地を訪れることができなかったが、地域の方とはオンラインで交流を継続していた。

■集落の抱えている課題

標高 400m の丘陵地であり豊かな自然に恵まれているが、人口減少による空き家の増加や、祭り等の担い手不足などが課題となっている。

■2022 年度の活動

昨年度はオンラインのみの交流であったことから、今年度は実際に現地に赴き、地域の方々が抱える課題や「これからやっていきたいこと」を整理するワークショップや、これまでも続けているイベントの手伝いを行った。

〈主な活動内容〉

- ・現地調査
- ・ワークショップ
- ・新そば収穫祭りと軽トラ市の手伝い



3-2.
福島大学
【SEED to Dishes】

×
郡山市 おうせ
逢瀬町

○福島大学
【SEED to Dishes】

SEED to Dishes、つまり生産者から消費者までを幅広く学ぶ食農学類に在籍するメンバー。逢瀬町の農業や農作物をどう加工し、販売するかまでを考える。

■集落の抱えている課題

豊かな水と緑に恵まれた地域。農業の6次産業化に取り組み、ワイナリーが2015年に立ち上げられ、農家民泊や農業体験の受入れ等も行っている。郷土料理であるキャベツ餅は地区内で販売されているが、さらに土産品としての開発が望まれている。

■2022 年度の活動

今年度は、SEED to Dishesとして、新たなメンバーで取り組む。地区の主要施設等に伺い、ヒアリングを行った。新たにブランド野菜である「冬はなごろも」の商品開発、キャベツ餅のお土産づくり（フリーズドライ）に今後取り組んでいくことが決まった。

〈主な活動内容〉

- ・現地調査、ヒアリング
- ・新たな活動案の提案
- ・イベントの手伝い など



3-3.
獨協大学
ほんそんみらい
プロジェクト

×
喜多方市 ほんそん
本村

○獨協大学
ほんそんみらいプロジェクト

メンバーは学部を超えて「地域活性化」のために集まったチーム。今年度は卒業生も加わり、これまで蓄積してきた現地活動の経験を活かして地域の活性化に取り組む。

■集落の抱えている課題

高齢化率は54.5%と高く、これから10年後の集落を考えれば、人口減少と高齢化の進行は避けられず、集落の維持・活性化の方策が必要である。

■2022年度の活動

これまで提案してきた「フットパス」を実現するため看板づくり、ツアープランづくりなどを行い、地域の方々と歩いて検証した。

〈主な活動内容〉

- ・現地調査、地域の方々との交流
- ・フットパス整備（看板制作、のぼりの設置、コース散策イベントの実施）



3-4.
会津短大
大戸町盛り上げ隊

×
会津若松市 おおと
大戸町

○会津短大
大戸町盛り上げ隊

メンバーはプロダクトデザインを学んでいることから、ものづくりで地域の活性化を支援できればと考えている。

■集落の抱えている課題

芦ノ牧温泉街、豊かな自然に恵まれた地域であり、稲作、果樹栽培等の農地が広がっているが、荒れた竹林など景観性が低下しており、竹林の整備、竹の活用を考えている。

■2022年度の活動

昨年度提案した、竹の生活雑貨を制作し、地区のイベントである大戸マルシェでの販売を行った。

〈主な活動内容〉

- ・竹の伐採作業
- ・竹製品の制作
- ・大戸マルシェの支援及び竹製品の販売



3-5.

福島大学 経済経営学類
藤原遥ゼミナール田村
市都路町地域づくり研
究会

×

田村市 ^{つぶり}頭の巢

○福島大学 経済経営学類
藤原遥ゼミナール田村市都
路町地域づくり研究会

中山間地の「山の暮らしの再
生」をテーマに研究しているメン
バーは、集落の方々にとって豊
かさとは何であったかを考え、
取り戻すためには何が必要か
を考える。

■集落の抱えている課題

集落は生活の不便さや自然環境の厳しさから、高齢化が
顕著であり、耕作放棄地の拡大など美しい景観が失われつ
つある。

■2022年度の活動

集落の課題を掘り起こした上で、暮らしの再生を図って
いくためのアイデアをまとめ「集落計画」をつくることが
目標。心の復興につなげていきたいと考えている。今年度
は、ワークショップによりアイデアを整理し、景観づくり
を切り口に地域づくり計画の立案に取り組んだ。

〈主な活動内容〉

- ・ワークショップによるアイデアの収集
- ・パンフレットづくり（集落計画）



3-6.

獨協大学 大竹ゼミ

×

南会津町 ^{はしかぜ}耻風

○獨協大学 大竹ゼミ

メンバーは大学で経済を学
び、地域と学生の双方にプラス
になる地域交流システムを構
築したいと活動する。

■集落の抱えている課題

以前は稲作や果樹が主体であったが、現在はソバとリン
ゴ果樹に移行している。こうした特産品を使った商品開発
や販路拡大が課題であるほか、失われつつある美しい集落
景観を整備し、外部に発信していくことが課題である。

■2022年度の活動

今年度も継続して現地に赴き交流をしていくほか、トマ
ト農家での1か月余りのアルバイトを行うなど具体的な
地域支援を行ってきた。

〈主な活動内容〉

- ・トマト農家、直売所でのアルバイト
- ・ハス育成の研修受講
- ・新企画の提案（大学での
そば打ち体験会の開催）



3-7.

東北文化学園大学
エコ・カフェ菟川

×

二本松市 はりみち 針道9区

○東北文化学園大学
エコ・カフェ菟川

サテライトキャンパスづくりから
入った東北文化学園大学と
針道9区の活動は5年目に入
る。現メンバーは活動1、
2年目である。

■集落の抱えている課題

震災以降、農家も減少し、耕作放棄地の拡大が止まらず、高齢化、過疎化が進む中、集落機能の維持が懸念されている。また、伝統的祭りである「針道あばれ山車」を担う「若連」の担い手不足も深刻な課題である。

■2022年度の活動

「あばれ山車」の支援を行うことが最重要と考え、山車の制作から祭り当日までの手伝いを行った。

〈主な活動内容〉

- ・地域の方々との意見交換
- ・あばれ山車の支援（山車制作～祭り当日）など



メモ欄

令和4年度
大学生と集落の協働による地域活性化事業

福島県 企画調整部 地域振興課
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

令和4年度 福島特定原子力施設地域振興交付金事業